

景観に配慮するって どういうこと？

実際に家を建てたり、増改築したりする際に景観に配慮した計画をするにはどうしたらいいのか…。

今年度、景観まちづくり賞に選ばれた「金栄堂」を例に下田景観まちづくり審議会委員で一級建築士の水口順策さんに解説していただきました。



改修前の写真

安定感を出す

人は無意識の中で安定を求めています。安定感を出すポイントのひとつは重心を下にすることです。金栄堂の建物は下への意識付けを出すために横方向のラインを入れてあります。右写真はラインをなくした場合の合成写真です。現在の写真と比べると安定感に差が出るのがわかります。また、ラインが無い写真は簡素なイメージとなります。



建物のボリュームを軽減する



金栄堂は2階が住居となっている店舗兼住宅です。2階の住居部分の生活感を出さないように、2階部分が目立たないように壁にツヤのない濃茶色の素材を貼り、窓には格子を付けガラスの反射を抑えてあります。この格子は和の風情を出すのにも効果的です。また、看板のついている正面のバラベツト（2階の屋根を隠すための立ち上がり）面が高すぎて威圧感が出ることを、下部に茶色の四角いタイル（看板面の上下）を貼って高さを短く見せて、ボリュームを軽減しています。



現在の金栄堂正面

素材を統一して一体感を出す



改装にあたっては、自然素材を多用しています。自然素材とは地球の鉱物を加工してつくられたものです。左官材料、タイル、鉄、ガラスもそうです。以前の看板は石油からつくられた樹脂板を加工したものでしたが、今回は漆喰で塗り重ねることでツヤもなく、落ち着いた色もあって全体の統一感が出ています。店名の文字は立体感が出るように漆喰で盛り上げていますが、これはなまこ壁に代表される技術で、下田らしさを出すのにも効果的です。

立体感を出す

正面の平面的な印象を少し解消するため、壁に取り付けた縦横の木の幅を取付場所ごとに変えてあります。点線の部分（右写真）に注目してください。A案とB案を比べると、幅の太い所（縦）と細い所（横）を組み合わせたA案の方が少し立体感が出ています。幅が一緒のB案はA案より単調になります。



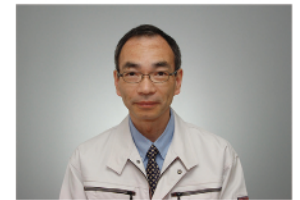
A案

B案

まとめ

街中ということもあり、周辺は建物ばかりですが、背景の山や付近に古民家があることから、材質や建物のボリューム、色彩などに気を配った計画となっています。こうした景観への配慮によって、周辺に溶け込む建物となり、道を行き交う通行人にとって、下田らしさを感じていただけるのだと思います。景観についてお悩みなどありましたら、下田市建設課までお気軽にお問い合わせください。

執筆者紹介 水口 順策



西伊豆町田子生まれ。下田市在住。あんしん住宅一級建築事務所代表。下田市の景観まちづくり審議会委員を長年にわたり務めており、景観を意識した建物について実践的に取り組まれています。